

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 アダージョ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～	令和 7年 2月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数)	29人
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 12日		～	令和 7年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子育てサポートや家族支援、関係機関連携と児童や家族の支援に一番重点を置いて取り組んでいる点が強みです。ペアサポや相談支援も行える体制や環境を整えていて、職員やメンターさんたちがボランティアでいろいろなイベントや研修、講演企画を絶えず提供発信していることです。	児童にとって一番大切な居場所である家族が、円満良好であること、いつまでもいつでも帰ってこられる相互を思いやれる関係環境であることを意識して取り組んでいます。	今、行っていることをさらに継続して充実させていくところです。
2	運営システムを利用して、保護者がタイムリーに療育やその日の様子を確認できたり、行事や活動、サービスといった事柄がスマホで通知を見えるようになっていることが、関係がより身近になり信頼関係や相談支援を強くしています。	とにかく、タイムリーに情報を提供していけることが大切です。	もっと課題についての取り組みを保護者の方と共有して、いつでも現状についてお話ができるよう推進していくことを目標にしています。
3	ITツールを使って、タイムリー且つ広い範囲で情報共有や意見交換ができます。ほとんどの現場にかかわる情報が確認して動けるようにしています。いつも活気ある活動や適切な個別支援が行えるところです。	支援や業務について目標やGoalを考えて、ITツールに掲げて共有して取り組むように心がけています。	その日に行われる療育の内容や仕掛け等の取り組みも、関係全員が確認して自身の役割や立ち回りを質問して準備できるようにしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	弱みと感ずることはありませんが、強いてあげるなら若い職員が多いので、経験値という点では少ないため、ひとつひとつが新しい課題として各々に生じています。	逆にそれらを逆手にとってもっと違う取り組み方がないか、新たな発想に生かせるように取り入れます。	経験豊富な職員をしっかりと教材にして、もっと生かしていけるようにマニュアル化していけたらと考えます。
2	包括的に家族支援を幅広く行うためには、外部機関を頼ってそれぞれの専門分野の力が必要になります。	専門性の高い職員はまだ幅広く必要だと考えています。	外部の専門職員の派遣や委託契約を締結できるように考えていきます。
3	目標やGoalを決めて計画的に取り組んでいくことが、人を育てるうえで重要な要素と考えています。	若い職員が多いため経験ややり方、深く考えて組み立てていく力が必要です。	時間管理や目標Goalを掲げてPDCAで回していけるように、ITツールでみんなで少しずつでも向上していきます。